

『問題解決的な学習を仕掛け、社会的な見方や考え方を養う』授業

「これって何のための工夫だろう」「調べたことがつながるね」「つまりこういうことかな」と、社会的事象の意味や特色を考えている子ども。「こういう人々の努力や工夫があって今の社会があるんだ」「こういう思いを受け継いでいかなきゃ」と自分と社会との関わりを見つめ周りに伝えようとする子ども。

このような子どもの姿を願って、社会的な見方や考え方を育てる授業を実践することは、社会科の究極的なねらいである「公民的資質の基礎」を養うことにつながります。

ポイント 1

問題解決的な学習を構想する

- 学習指導要領の目標や内容を構造的に捉えましょう。
学習指導要領小学校社会科における各学年の内容は、以下のように記述形式が統一されているので、構造的に捉えやすくなっています。

A(社会的事象)について、次のこと(ア、イ、ウ…)を B(学習の仕方)して調べ、C(社会的事象の意味、特色、相互の関連など)を考えるようにする。
*ア、イ、ウは(調べる対象)

単元のねらいにあたる「社会的事象の意味、特色、相互の関連などを考えるようにする。」ことを意識した学習を構想していくことが大切です。

- 問題解決的な学習を仕掛けましょう。(単元構想、授業構想)
 - ・子どもの「なぜ？」を引き出す資料を提示して学習問題を設定する。
 - ・学習問題に対して予想し、学習計画を考える。
 - ・予想や学習計画に基づいて調べる。
 - ・分かったことや考えたことを基に、学習問題を解決するまとめや、学習を発展させるまとめを行う。

ポイント 2

言語活動を充実させ、社会的な見方や考え方を養う

- 調べる活動を行う際に、学習問題を解決するための資料を用意しましょう。
第1段階として資料から分かること、第2段階としてそこから考えられることに活動を分けて行くと、どの子どもも取り組みやすくなります。
- 第2段階として考える場面では、資料から分かったことを比較(比べる)・関連付け(つなげる)・総合(まとめる)しながら再構成する学習、考えたことを自分の言葉でまとめ、伝え合うことによりお互いの考えを深めていく学習等の言語活動の充実を図り、社会的な見方や考え方を養うことにつなげていきましょう。

▲ 陥りやすい点

適切な事例の選択ができていますか？

小学校社会科では、事例を選択して学習を進めることが多くの単元で求められています。例えば、3・4年生の「廃棄物の処理」の学習では、「ごみ、下水のいずれかを選択」することになっています。これは、ごみと下水についての両方の知識を覚えさせるのではなく、ごみ又は下水についての学習を通して社会的な見方や考え方を養うという考えが根底にあります。「内容の取扱い」から留意事項を確認し、適切に事例を選択して学習を進めましょう。

実践事例(小学校3・4年生)

単元名 県内の特色ある地域の人々の生活
「河津町の人々の生活」

本時の目標 資料「河津桜のあゆみ」を基に河津町に河津桜がたくさんある理由を話し合う活動を通して、河津町の人たちの努力について考える。(思考・判断・表現)

学習過程 (2/5時)

過程	主な学習活動・内容
つ	○単元の学習問題を確認しよう。 なぜこんなにたくさんのお客さんが河津町に来るのだろう
か	○写真「河津桜」「ソメイヨシノ」を見よう。 ・たくさん咲いている。8000本もあるの。 ・河津桜の色は濃い。きれいだな。 ・でも、これだけの違いで人が集まるのかなあ。
む	○資料「桜の咲く時期」を見よう。 ・河津桜は、咲く時期が1～2か月早いんだ。 ・なぜ河津町には早く咲く河津桜があるんだろう。
調	なぜ河津町には早く咲く河津桜がたくさんあるのだろう ・もともとあったと思う。 ・町の人たちが作り出したと思う。
べ	○資料「河津桜のあゆみ」からどんなことが分かるかな。 ・最初は1本の木だったんだ。 ・1本の早く咲く桜を育てて、町の木にしたんだ。 ・町の人たちが1本の桜の木を25年かけて8000本まで増やしたんだ。
る	○なぜ早く咲く河津桜がたくさんあるのか。調べたことを基にまとめてみよう。 ・河津町の人たちが、大事に桜を育てたから。 ・桜祭りを行うために早く咲く桜を育てたから。 ・たくさんのお客さんに来てほしいと思って、頑張ったから。
考	・他の地域がやってないときに桜祭りを行えば、たくさんのお客さんが来てくれるね。 ・河津町の人たちは、河津町が大好きだから、たくさんの人が来るにぎやかな町にしたかったんだと思う。
え	○学習問題について自分の考えを書こう。
る	なぜ河津町には早く咲く桜がたくさんあるのかという と、1本の早く咲く桜を大事に育てて町の木にして、桜祭りを目指して8000本まで増やしたんだと思います。他の地域がやっていない時期に桜祭りをすれば、たくさんのお客さんが来てくれます。河津町の人たちはたくさんのお客さんに来てほしいと思って努力を続けたんだと思います。桜祭りがどんな祭りなのかもっと詳しく調べたいです。
ま	
と	
め	
る	

学習形態
個
↓
ペア
↓
全体

この単元では、自然環境や伝統・文化等の資源を保護したり活用したりしている地域を2つ程度選択し、そこでの人々の生活を具体的に調べます。この単元の大単元の目標は県の特色を考えることなので、選択した地域と自分たちの市町を比較しながら、県全体の特色を捉えるようにします。

単元の学習問題を設定することにより、単元の学習が問題解決的なものとなり、子どもの主体的な学びを促します。

学習問題が生じる資料を提示して、子どもの疑問を基に、本時の学習問題を設定します。

子どもが解決の見通しを持てるように、予想させることが大切です。

資料にある複数の事実をまとめて表す等、考える活動に工夫を加えることにより、社会的な見方や考え方を養うことにつながります。

社会科では子どもの振り返りの言葉が多岐にわたるため、授業者が本時の目標に対する子どもの具体的な姿(言葉)を最初にイメージしておくことが大切です。

『問題解決的な学習を仕掛け、社会的な見方や考え方を養う』授業

「なぜだろう」「どういうことだろう」と社会的事象の意味や意義を考えようとする子ども。「どうなっているのだろう」と事象の特色や事象間の関連を考えようとする子ども。「どうしたらいいのだろう」と持続可能な社会を形成するという観点から考えようとする子ども。

このような子どもの姿を願って、社会的な見方や考え方を育てる授業を実践することは、社会科の究極的なねらいである「公民的資質の基礎」を養うことにつながります。

ポイント 1

問題解決的な学習を構想する

- 学習指導要領の目標や内容を明確に捉えましょう。特に歴史的分野の内容は以下のように記述形式が統一されているので、構造的に捉えやすくなっています。
○○、○○などを通して、Aのことを理解させる。
単元のねらいにあたる「Aのことを理解させる」の部分を意識して学習を構想しましょう。
- 問題解決的な学習を仕掛けましょう。(単元構想、授業構想)
 - ・子どもの「なぜ？」を引き出す資料を提示して学習問題を設定する。
 - ・学習問題に対して予想し、学習計画を考える。
 - ・予想や学習計画に基づいて調べる。
 - ・分かったことや考えたことを基に、学習問題を解決するまとめや、学習を発展させるまとめを行う。

ポイント 2

言語活動を充実させ、社会的な見方や考え方を養う

- 調べる活動を行う際に、学習問題を解決するための資料を用意しましょう。第1段階として資料から分かること、第2段階としてそこから考えられることに活動を分けて行くと、どの子どもも取り組みやすくなります。
- 第2段階として資料から分かったことを基に考える場面では、比較(比べる)、関連付け(つなげる)、総合(まとめる)、多面的・多角的な考察といった方法を用いると、社会的な見方や考え方を養うことにつながります。
- 作業的、体験的な学習(白地図作業、模擬選挙等)で終わるのではなく、そこから分かったことを基に社会的事象の意味、意義を解釈する学習や、事象の特色や事象間の関連を説明する学習などを充実させましょう。

▲ 陥りやすい点

知識に偏りすぎた指導になっていませんか？

社会的な見方や考え方を養うことを重視する観点から、細かな事象を網羅的に羅列する学習にならないようにすることが大切です。特に以下の学習において、子どもが主体的に思考・判断・表現などの学習活動に取り組むことを目指しましょう。

- 地理的分野…世界の諸地域：主題を設けて地域的特色を理解する学習
日本の諸地域：地域的特色ある事象を中核とした考察
- 歴史的分野…時代を大観し表現する活動
- 公民的分野…対立と合意、効率や公正といった見方や考え方を生かした学習

実践事例(中学校地理的分野)

単元名 日本の諸地域～九州地方～

【環境問題や環境保全を中核とした考察】

本時の目標 資料から読み取ったことを基に九州地方の環境問題や環境保全の取組に関連する地理的事象を見出すとともに、学習に対する見通しを持つことができる。(思考・判断・表現)

学習過程 (1/5時)

過程	主な学習活動・内容
つ	九州地方は、どのようなところだろう
か	・暑いところ ・自然が豊かなところ ・火山活動が活発なところ
む	○資料から読み取ろう。 資料①「メガソーラー発電への取組状況」 ・メガソーラーは、西日本に多い。 ・九州の北部と沖縄にメガソーラーがある。
調	資料②「地熱発電の導入状況」(電気事業連合会 HP) ・地熱発電所は、東北地方と九州地方に多い。 ・九州地方は、地熱発電所が多い。
べ	資料③「選定された環境モデル都市」(内閣府地方創生推進室 HP) ・環境モデル都市は、中部地方と近畿地方、九州地方に多い。
る	○読み取ったことから九州地方はどんなところと考えられるかな。 ・発電所が多いところ。 ・再生可能エネルギーによる発電所が多いところ。 ・環境を守る取組が盛んなところ。
考	資料④「クリーン九州プロジェクト(表紙)」(九州経済産業局 HP) ・九州全体で環境を守りながら成長していくことを目指しているんだ。 ・なぜ環境を守ることに力を入れているのかな。
え	なぜ九州地方は環境を守る取組が盛んなのだろうか
る	○予想しよう。 ・豊かな自然を守りたいから。 ・再生可能エネルギーが豊富にあるから。 ・環境モデル都市である水俣市は水俣病のような公害病を2度と起こさないようにしようと考えているから。
ま	○今日の授業を振り返り、思ったことやこれから調べてみたいことを書こう。
と	
め	九州地方に、再生可能エネルギーによる発電所や環境モデル都市が多いことに驚いた。九州の自然や産業の歴史と関係していると思う。環境モデル都市で行われている取組について詳しく知りたい。
る	

学習指導要領解説には、本単元の学習の展開例として、〈地域の特色を示す地理的事象を見出す段階〉〈中核とした事柄を他の事象と関連付けて追究する段階〉〈追究の過程や結果を表現する段階〉が示されています。本実践は〈地域の特色を示す地理的事象を見出す段階〉です。

「九州地方はどのようなところか」を解決するとともに、単元の学習問題を設定するために、4つの資料を提示していま

第1段階としてそれぞれの資料から分かることを確認し、第2段階としてそれらをまとめて考えられることを確認する場を設けています。2つの段階を設けることによって、社会的な見方や考え方を養うことにつながります。

単元の学習問題を設定することにより、単元の学習が問題解決的なものとなり、子どもの主体的な学びを促します。

子どもが問題解決の見通しを持てるように、予想させることが大切です。

社会科では子どもの振り返りの言葉が多岐にわたるため、授業者が本時の目標に対する子どもの具体的な姿(言葉)を最初にイメージしておくことが大切です。